

そ う じ ん た ん

# 搜神譚

その式 『神楽 kami asobi』 の章

この作品は、2024年制作「搜神譚その壺・神岡の章」に引き続き、日本の地層に眠る神（カミ）を探る試みです。

現代から近世、中世、さらには「神」と名が付けられる以前から 人智を超えた力を恐れ、あるいは祝福する人々の手によって、無数の神々が生みだされてきました。時代を超えてさまざまな神々の層が折り重なり、おもてに表れた神の背後には、隠され消された神々がいます。作品の中心となるのは、時代を超えたある架空の祭祀場、神を招き喜ばせる「神楽（かみあそび）」の場です。

「かみあそび」を擬（もど）きたいと思います。

とあるビルの一室で

機械仕掛けのモノたちが踊っている

彼らは真似る

人を 神を あめつちを

山奥の小さな村で 祠の蔭で 後ろ戸の奥で

はるか古の時代からそれは繰り返されてきた

彼らは擬き続ける

笑いながら 戯れながら

